

7月30日 13:00 ~ 15:30	上野 ふれあい プラザ 3階 福祉団体 事務室	8名	①講座のようす ②受講生へのアンケート の検討 ③講座修了後の活動	①講師からの感想 ・参加者は和やかで積極 的である。・女性が多い。 ②アンケートの質問項目 に入れるものとして、 ・講座、講義時間 ・興味が持てた内容 ・日本語指導者として活動 するか 等 ③講座修了後の活動場所 として、 ・伊賀日本語の会 ・ささゆり教室 などを紹介する。
10月22 日 13:00 ~ 15:30	上野 ふれあい プラザ 3階 福祉団体 事務室	6名	①講座のまとめ ②アンケート結果の報告	①講師からの感想 ・講座の参加率はよかつ た。・1日の講座時間(4時 間)の見直しが必要。 ②・講座に参加すること で、多文化共生の行動を おこすきっかけになったの ではないか。 ・来年も開催したい。

3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名

身近な外国人支援のための・・「にほんご指導ボランティア養成講座」

(2) 養成講座の目標

文法、会話、文字など直接法の教授法と教材づくりを中心に、日本語教室等での支援者として、生活者としての外国人の立場にたった日本語で「にほんご」を教えるための基礎を学びます。

1. 定住外国人の現状と理解を深め、多文化共生の理念を身につける。
2. 日本語で「にほんご」を教える知識と技術を身につける。
3. 地域の外国人とのコミュニケーション能力を身につける。

(3) 受講者の総数 24人

(4) 開催時間数(回数) 32時間 (8 回)

(5) 参加対象者の要件

- ①教員免許取得者等（教員としての経験は問いません）
- ②外国人を対象とする日本語指導に関心のある人で、講座修了後に日本語指導活動をする意志のある人
- ③原則として全講座に参加できる人

(6) 受講者の募集方法

・募集記事の掲載

方法	掲載紙名	月 日
伊賀市市広報紙	伊賀市広報	21年6月 1日号
名張市広報	広報なばり（名張市）	21年6月 3日号
新聞	朝日新聞	21年6月12日（金）
	毎日新聞	21年6月12日（金）
	読賣新聞	21年6月14日（日）
	中日新聞	21年6月20日（土）
タウン誌	伊賀タウン情報ユー	21年6月13日（土）
市民活動誌	市民活動・ボランティアニュース7 （三重県）	21年6月25日（木）
	いがびーと6月号（伊賀市）	

・案内ちらし、ポスター

方法	配布場所
ちらし	伊賀市役所・伊賀市市民活動支援センター・ 伊賀市内各市民センター 伊賀市社会福祉協議会・伊賀市立上野図書館 名張市役所・名張市市民活動支援センター・皇學館大学 等
ポスター	伊賀市役所・伊賀市市民活動支援センター・ 伊賀市社会福祉協議会 名張市役所・名張市市民活動支援センター・皇學館大学 等

(7) 研修会場

施設の名称 伊賀市ゆめぼりすセンター（2階 大会議室／1階 会議室）
所在地 〒518-0131 伊賀市ゆめが丘一丁目1番地の4
電話番号 0595-22-0310

(8) 使用した教材・リソース

- ・みんなの日本語
- ・「DVDで授業の流れがわかる日本語の教え方のコツ」（アルク版） ほか

(9) 講座内容

	実施日時	内容	講師	参加者数
1	7月 4日(土) 午後1時～ 1時30分	オリエンテーション		23名
	午後1時30分～ 2時30分	多文化共生社会を担う日本語 教師の役割	国際交流センター 日本語教師養成講座 講師 船見 和秀	
	午後2時45分～ 5時	伊賀市の外国人の現状と 多文化共生	(特)伊賀の伝丸 代表理事 和田 京子	
2	7月11日(土) 午後1時～5時	日本語を見直してみよう	国際交流センター 日本語教師養成講座 講師 船見 和秀	21名
3	7月25日(土) 午後1時～5時	異文化コミュニケーション	国際交流センター 日本語教師養成講座 講師 船見 和秀	19名
4	8月 1日(土) 午後1時～5時	日本語の意味	伊賀日本語の会 事務局長 仲渡理恵子	16名
5	8月 8日(土) 午後1時～5時	日本語を教えるための教材づ くり	伊賀日本語の会 事務局長 仲渡理恵子	15名
6	8月22日(土) 午後1時～5時	日本語の教え方(1)	国際交流センター 日本語教師養成講座 講師 船見 和秀	16名
7	8月29日(土) 午後1時～5時	日本語の教え方(2)	国際交流センター 日本語教師養成講座 講師 船見 和秀	17名
8	9月 5日(土) 午後1時～ 2時30分	ブラジルを知ろう	三重県国際交流財団 交流員 古川アンナ明美	18名
	2時45分～ 4時30分	学んだことを生かすために	伊賀日本語の会 代表 菊山 順子	
	4時30分～ 5時	修了式		
	午後7時～ 8時30分	希望者のみ 「伊賀日本語の会」見学		7名



←講座の様子

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- ・「参加してよかった」と答えた人は、89%であり、楽しく学ぶことができたという感想が多かった。その反面、さまざまな制約があったり、活動の場が少ないということもあり、活動していく人が少ないというのが、今後の課題でもある。

「アンケートから」

- ・先生方も楽しく学べるように、いろいろと工夫されていたので、「教える」ということは興味をもってもらうことなのだと実感しました。
- ・多くのことを楽しく学ばせていただきました。今まで知らなかったこと、間違っていたこと等に気づかせていただき、本当によかったと思います。

② 実施主体からの研修内容結果評価

1. 意識の変化

直接的な支援活動には関われない人もいる。しかし、職場（銀行の窓口対応、行政の窓口対応など）で、外国人に対応することがある。わかりやすい日本語で、会話をするように心がけている。日本語教師」をめざして、「日本語教師養成学校」へ通学を始めた人もいる。多文化共生の理念や日本語の教え方を習得することで、意識が変化し、行動等に結びついている。

2. 社会的な広がり

雇用状況の悪化により、企業に解雇されたり、日本語がわからないことで就職が困難な外国人のことが社会問題となっていた。外国人を支援する、「日本語指導者養成講座」開催は新聞等で紹介されることで、定住外国人の抱えている問題について、市民に対して啓発する機会となった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・行政、NPOなどと連携して、日本語指導者の養成をとおして、ボランティアや協力者を増やしていく。
- ・地域での日本語教室の開催を希望するボランティアへの支援。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・伊賀市、教育委員会 主催事業「学習支援教室ささゆり」
- ・伊賀日本語の会主催「日本語教室」

② 研修後の人材活用

- ・伊賀市主催の外国人の子どもたちのための「学習支援教室ささゆり」へ参加。
- ・日本語指導ボランティアとして「日本語教室」へ参加。
- ・定住外国人不就学児童調査に参加。

(12) 今後の課題

①2009年9月末の伊賀市の人口は100,800人です。外国人住民は、4,687人で、総人口に占める割合は4.65%である。定住外国人に日本語を指導できる人材は慢性的に不足しており、今後も「にほんご指導ボランティア養成講座」を開催して、人材を育成していくことが求められる。

②行政、国際交流協会、地域等で、日本語指導ボランティアが学んだことを実践でき、幅広く活動できる場の確保と人材の活用を検討することが求められる。